広報誌

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
愛知県支部

日赤あいち

No.152
2022. 秋

- 豊田献血ルーム開設25周年　記念キャンペーン開催！
- 青少年赤十字メンバー　オンラインで国際交流
- クロスサポーターに聞く！：明治安田生命保険相互会社　名古屋本部
- 赤十字奉仕団ボランティアリレー：愛知県赤十字救助奉仕団

ボランティアとして活躍する奉仕団がリレー方式で登場

赤十字奉仕団　バトンタッチ！

ボランティアリレー

今号の奉仕団

愛知県赤十字救助奉仕団

こんな活動をしています

長年にわたり障がい児への水泳教室を続けています。

愛知県赤十字救助奉仕団は、「完全参加と平等」をテーマにした「国際障がい者」年である1981年（昭和56年）に、その主旨を踏まえ水上安全法救助員の資格者をもって奉仕団を結成しました。

第１回全国心身障がい児の水泳指導者研修会に団員を派遣し、また、名古屋市障がい者スポーツセンターの協力を得ることをできたことから、同年より、障がい児を対象とした水泳教室を開催し、現在も続いています。長年継続した活動が認められて2013年（平成25年）８月に「愛知県ボランティア功労賞」を受賞する事ができました。

他にも「広めよう赤十字！５月の愛知一斉キャンペーン」の街頭呼びかけや、「NHK海外たすけあい」の募金活動を行っています。

イチオシポイント

「救助の和・輪」を合言葉に

水泳教室は、今では「水に親しむふれあい教室」に名称を変え、月に一度、活動しています。また、毎年12月には教室に来てくれた子どもたちと料理を作りクリスマスパーティーを開催し楽しんでいます。

さらに、水上安全法救助員の資格を生かし、支部が主催する水上安全法講習会のお手伝い、夏季に県内小学校で実施する着衣泳講習のアシスタントとして活躍をしています。

今後もこうした活動を続けていきます。

活動資金

ご協力ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ
活動資金として
多額のご寄付をいただいた法人様

- ホッコー株式会社 様
- 株式会社パロマ 様
- 株式会社ニシ 様
- 株式会社フェニックス 様

PRESENT

赤十字七原則エコバッグ

赤十字の七原則を英語でプリントしたエコバッグです。
日常で使いやすいベージュカラーです。

5名様

応募先
Mail：aichi-koho@aichi.jrc.or.jp
Fax：052-971-1586
郵送：〒461-8561 名古屋市東区白壁 1-50
日本赤十字社愛知県支部「日赤あいちプレゼント」係

明記事項
①お名前　②郵便番号・ご住所　③電話番号
④年齢　⑤「日赤あいち」の入手先　⑥ご意見・ご感想など

締切／令和４年 12月31日必着

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society　愛知県支部　日赤あいち
〒461-8561 名古屋市東区白壁 1-50　TEL 052-971-1591（代表）
発行元／日本赤十字社愛知県支部　発行日／令和４年 10 月 1 日

Twitter

活動の詳細や
最新情報は
ウェブサイトか
SNS へ

日赤あいち　検索

https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/

Instagram
NISSEKI_AICHI

クロスサポーターに聞く!!

日本赤十字社愛知県支部とタイアップし様々な活動に取り組む企業、団体、人物を紹介します。

Cross Supporter

明治安田生命保険相互会社　名古屋本部

執行役員　名古屋本部長　金山 毅 様

活動内容
明治安田生命保険相互会社は約140年の歴史と伝統をもつ日本最古の生命保険会社です。企業理念として「確かな安心を、いつまでも」お届けするとともに、企業ビジョンとして「信頼を得て選ばれ続ける、人に一番やさしい生命保険会社」になることを掲げています。今年４月、日本赤十字社と「地域づくり・未来世代」応援プロジェクト」の展開に関する包括パートナーシップ協定を締結しました。

人々の健康・福祉を支え、豊かな社会づくりに取り組む
包括パートナーシップ協定を締結

○明治安田生命の社会貢献活動について

▼明治安田生命様は様々な社会貢献活動を展開されていますが、代表的な取り組みや愛知県内での取り組みを教えてください。

明治安田生命は２０３０年に目指す姿を「『ひとに健康を、まちに元気を。』最も身近なリーディング生保へ」と定め、２大プロジェクトである「みんなの健活プロジェクト」や「地元の元気プロジェクト」といった取り組みを進めています。

愛知県下では県内各地に営業拠点が60あり、７月末時点で愛知県内に54ある自治体のうち36市町村と連携協定を結んでいます。この連携協定に基づき、自治体と協働して地域住民への健康意識向上を企図した健康ブースの出展をはじめ、公民館での認知症講座開催、道の駅での健康イベント実施、各地域における祭事への助成等に取り組んでいます。

また、Jリーグ等と共に地域社会活性化に向けた取り組みを展開しており、愛知県では名古屋グランパス様、FCマルヤス岡崎様およびFC刈谷様と共同でサッカー教室開催等を行っています。さらに法人向けの取り組みとして愛知県ご後援のもと協会けんぽ愛知支部様と共に企業様を招いて健康経営セミナーを開催しています。

こういった取り組みを愛知県内で今年度４月から８月で総数４１９回開催し、約１万５千人の方にご参加いただいています。

○日本赤十字社との包括パートナーシップ協定について

▼日本赤十字社と明治安田生命様は今年４月に包括パートナーシップ協定を締結し、全国的に様々な取り組みを今後行っていくことになりました。名古屋本部様では、どのような思いや期待をお持ちでしょうか。

今回の包括パートナーシップ協定は、日本赤十字社が取り組む「人々の健康・福祉を支える地域づくり」に対して「地域社会との絆」・「未来世代との絆」を企業ビジョンとする当社が共感し、「お互いを思いやり、助け合い、尊重し合う、また、未来の世代を想う社会づくり」に取り組むことを合意したものです。

日本赤十字社というと、献血や病院のイメージがありましたが、今回の協定を機に日本赤十字社と触れることで、国内外の紛争・災害に苦しむ人たちへの支援はもちろんのこと、地域における奉仕団活動や講習普及活動など、思っていたよりも多くの活動をされていることを知りました。まずは、このような赤十字の活動を多くの地域住民の方に対して周知、また各地域にて行われている日本赤十字社での事業に参画することで理解促進を図って参ります。また、明治安田生命として取り組んでいる２大プロジェクトをつうじた地域住民の健康増進、地域社会への貢献をしたいと考えています。

具体的な取り組みはこれからですが、明治安田生命名古屋本部として日本赤十字社愛知県支部と連携して、各種取り組みを共に実践することで、愛知県内における豊かな社会づくりに貢献し、地域社会の抱える様々な課題・ニーズにお応えしていくことを目指していきたいと考えています。

CLOSE UP

コロナ禍3年目、対面での支部主催講習を全面的に再開！

新型コロナウイルス感染症の世界的流行が始まり今年で3年目。日本赤十字社愛知県支部では、一般の方を募集して行う対面での講習を、この7月から全面的に再開しています。特に水上安全法講習など例年行われていた夏季ならではの講習も、県内各地で再開することができました。

今回の日赤あいちでは、感染症流行下でも対策を徹底し、再開にこぎ着けた講習の様子を取り上げます。

※これまでは感染拡大防止のため、実技内容を接触を避けるものに限定して講習を継続してきました。

01 全面的な対面講習再開を前に指導員を対象に研修を開催

全面的な対面講習再開にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策の徹底が必須です。マスクの着用や手指消毒、物品の消毒はもちろんのこと

- ☑ 講習2週間前から指導員・受講者に毎日体温と感冒症状のチェックをしてもらい、講習当日に提出
- ☑ 受講者の人数をコロナ禍前の半数に
- ☑ 実技会場では常時換気や実技スペース間の間隔を充分に確保
- ☑ 実技のときの受講者ペアを固定、指導員も指導するグループを固定

といった対策を行っています。

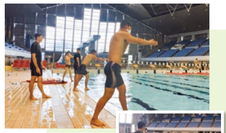
こうした対策を徹底するため、愛知県支部ではボランティア指導員の方への研修会を6月から7月にかけて開催しました。感染対策の周知徹底を図るとともに、講習指導する機会が激減した2年のブランクを取り戻すため、実技や指導方法の再確認も行いました。

02 水上安全法救助員Ⅰ・Ⅱ養成講習

水上安全法救助員養成講習は救助員Ⅰではプールで、救助員Ⅱでは川や海といった自然域で水の事故に遭った人を救助するための方法を身につける講習を行います。

どちらの講習も、支部が主催するものは令和2年度から中止を余儀なくされていました。

水上安全法救助員Ⅰは日本ガイシアリーナで開催。感染対策のため、プールサイドではプール用マスクやマウスガードを着用しています。▼



救助の実技は指導員が厳しくチェックします。▶

水上安全法救助員養成講習は数日間に渡り水の中での実習がある体力的に厳しい内容です。

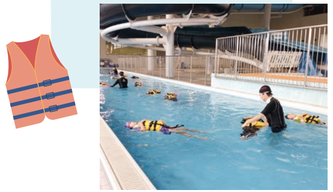
特に、蒲郡市の西浦パームビーチで開催した水上安全法救助員Ⅱは、実際の海で自然域の中ならではの難しさを体感しながらの講習ですが、受講者全員が最後までやり遂げました。

03 水上安全法短期講習（着衣泳）&赤十字親子レスキュー

夏休み中の水の事故を防ぐため例年夏季に行ってきた着衣泳などの講習も、ここ2年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、プールに入らず教室や体育館で一部の内容を取り出して実施するなど、工夫して継続してきました。

今年は水に触れる機会が増える夏休みを前に、サンフロッグ春日井と共催の着衣泳講習を開催することができました。ライフジャケットの正しい着用方法や、ペットボトルなど身近なものを浮きがわりに使う方法といった、助けが来るまで少しでも長く浮いて待つ方法を水の中で体験しながら学びました。

慌てて泳ごうとせず、助けが来るまで少しでも長く浮くことができる姿勢を学びます。▼



▲流れるプールでライフジャケットを着て浮いて待つ体験。浮力を最大限に得るため、えりを両手でしっかり持って仰向けで待ちます。

▲晴天のもとで開催された吉良ワイキキビーチでの親子レスキュー。家族ごとに間隔を空けて準備体操を行いました。

赤十字親子レスキューは、海で事故に遭ったとき、助ける方法・助けを待つ方法を親子で学ぶ講習です。

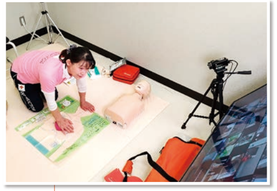
7月22日に西尾市の吉良ワイキキビーチで、7月28日には常滑市の常滑りんくうビーチで、各市の日赤地区と共同で開催しました。夏休みが始まったばかりということもあり、たくさんの親子が参加し、海で楽しみながら、いざという時に自分の身を守る方法を学びました。

海での救助に使われるレスキューボードの体験（左）やペットボトルやビニール袋のように身近なものを浮きがわりにする方法を海で体験しました。（下）（いずれも常滑りんくうビーチでの様子）

オンラインでの講習も続けていきます

オンラインでの講習は、育児や介護などで家を空けられず、これまで対面の講習に参加しにくかった方でも自宅から参加することができます。そのため、感染症流行時でも開催できるだけでなく、育児や介護に役立つ講習を今、必要とされている方に届けられるという利点があります。

これからも、愛知県支部では対面とオンラインそれぞれの特性を活かして1人でも多くの方に命を救う方法を伝えられるよう、様々な方法で講習普及を続けていきます。



Topics トピックス　活動やイベントを報告します

豊田献血ルーム開設25周年

記念キャンペーンを開催します！

皆様の長きにわたる献血へのご協力により、豊田献血ルームは本年で開設25周年を迎えました。平成9年に豊田そごう（当時）A館9階に開設して以来、延べ391,055人（令和4年8月31日現在）の方に献血のご協力をいただきました。

この度、25周年の感謝の気持ちを込めて、令和4年10月24日（月）～10月31日（月）の期間中に献血のご協力をいただいた方へ、ささやかながら記念品を進呈いたします（火曜定休日を除く）。

是非、この機会に豊田献血ルームにお越しください。スタッフ一同、皆様のご来場をお待ちしております。

青少年赤十字オンライン国際交流

青少年赤十字メンバーがモンゴルと国際交流

7月2日（土）、愛知県とモンゴルの青少年赤十字メンバーがオンラインのビデオ会議システムを利用した国際交流を行いました。新型コロナウイルス感染症の流行で互いの国を訪問できない状況が続くなか、昨年度から始めた取り組みです。

今回は、日本からは昔ながらの遊びを実演したり、モンゴルからは伝統的な踊りや楽器演奏の披露など両国の文化を紹介し合ったり、少人数に分かれてモンゴルの青少年赤十字メンバーと語り合うなど、互いの理解を深める1日になりました。

なごや市民総ぐるみ防災訓練に参加

地域住民に災害への備えを紹介

9月4日（日）、日本赤十字社愛知県支部は名古屋市内各所で開催された「なごや市民総ぐるみ防災訓練」に参加しました。

当日は、各区からの要望をもとに心肺蘇生法など救急法の講習や、幼児安全法講習や健康生活支援講習から災害時に役立つ内容を取り出した講習を開催したり、各地区に配備している資機材の展示を行い、参加された地域の方々に赤十字の災害への備えを紹介しました。

NHK海外たすけあいキャンペーン

12月1日から25日まで開催

日本赤十字社では、今年も12月1日（木）～12月25日（日）の期間、「NHK海外たすけあい」キャンペーンを開催します。

世界各地で多発する紛争や自然災害は、発生している地域の人々を苦しめるだけでなく、世界の食料危機の深刻化にも拍車をかけていることから、今年は「誰も取り残さない。紛争からも飢餓からも。」をテーマとしています。

愛知県内でも、愛知県支部をはじめとする各赤十字施設やNHK名古屋放送局などでの募金受付や、赤十字奉仕団による街頭募金などを予定しています。皆様からの温かいご支援をお願いします。

※写真は昨年の様子です